

グローバル人材育成プログラムで学んだこと

飯 沼 大 樹
Daiki IINUMA
物質化学科 3年

1. はじめに

私は、2016年8月15日から26日の10日間グローバル人材育成プログラムとして、カリフォルニア州サンノゼにある Senju Comtek Corp. にてインターンシップの参加の機会をいただきました。このプログラムに参加するにあたっての動機は、「視野の拡大」です。世界で働く人々とコミュニケーションをとり様々なことを学ぶことによって、自分自身の将来の選択肢を、日本だけではなく世界にまで広げようと考えました。また近年のグローバル化に合わせて自分自身も変わりたいと思い立ち、グローバルな人材となるため、その足掛かりとなるこのプロジェクトに参加しました。

2. 企業紹介

SMIC は、接合ソリューション提供メーカーです。はんだ付け材料、FA 機器、すべり軸受事業を核として、電気電子機器、半導体、自動車などあらゆる分野の多様なハイテクノロジー化の一翼を担う



図1 お世話になった Senju Comtek Corp.

モノ作りを行っている会社です (図1)。

3. 実習内容

実習は第一週と第二週に分かれ、第二週の最後には実習先の方々の前で英語を用いてプレゼンテーションを行いました (表1)。

表1 研修日程

	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri
8/15-8/19	Safety training	Production	Production	Labo work	Labo work
	Production	Production	Production	Labo work	Labo work
8/22-8/26	Shipping	Shipping	Inspection	Inspection	Presentation
	Shipping	Shipping	Inspection	Silicon Valley Tour	Presentation

Safety training は安全講習, Production は半田ペースト製造, Labo work は研究, Shipping は製品出荷検査, Inspection は性質分析です。

Safety training では普段工場で使われる工具の種類, 扱い方, 危険性などを学び最終的にテスト (英語出題) を受けました。作業において, スパナやスクリュードライバーなどのハンドツール, 電動のこぎりなどの電動パワーツールなどは日常的に使われており, 必要不可欠です。しかし, これらの工具は使い方を間違えると大事故につながってしまいます。このことを再自覚するとともに, 事故が発生した時の対処法を学びました。

Production では半田ペーストの製造について学びました。昔から使われている鉛半田ペーストをはじめ, 人体や環境に配慮した鉛フリー半田ペースト, ハロゲンフリー反半田ペーストなどの種類があり, これらはカスタマーの要望に沿って工夫され製造されています。融点の低い半田と融点の高い半田, 強度が高く固い半田と柔軟であり靱性が高い半田など, 携帯電話から PC 周辺機器, 自動車の部品まで多くの用途があります。

Labo work では独自の研究を進めました。半田ペーストを基盤につけ, リフロー (燃焼) したときの基盤の状態観察をしながら半田ペーストのつき方を

調べる実験を行いました。

Shipping では製造した製品がカスタマーの元へ正しく届けられるように箱詰め、検査を行う工程を行いました。ここではミスができるだけ減らすためのチェックの仕方を学びました。

Inspection では製品の性質検査を行いました。分析リストにある項目毎に、製品が正しい成分でできているか実験器具を用いて調査しました。大学で身につけた知識が役に立つこともあれば、新しく学んだ検査方法も沢山ありとてもためになりました。

Silicon Valley Tour ではシリコンバレーにある著名な会社、博物館を見学しました。Intel Museum, NASA Museum, Computer History Museum, Google, Apple の順に訪れ、博物館では技術進歩の背景、歴史を学び、会社では働く人たちの姿を観察し、日本の企業との相違点を考察しました。

特に感じたことは、日本の企業がオフィスで働くのに対して、見学した企業ではオフィスの外や休憩スペースなど様々な場所で働いているということです。このことからアメリカでは成果主義の精神が強く現れているように感じました。日本では成果主義の面と過程を重んじる面の両方が存在すると思いますが、この文化の違いが働く環境にも影響を与えているのだと考察しました。

Presentation では実習中に学んだこと、疑問に思ったこと、考察したことを発表しました。発表はパワーポイントを用い、英語で15分から20分で行いました。そこでは要点をできるだけ簡潔にまとめ、分かりやすい言葉で述べることを心掛けました。

4. ホームステイでの生活

私のホストファミリーは10歳の男の子、4歳の女の子、ホストマザー、ホストファザーの4人家族でした。子供たちとはインターン実習の間や休みの日に一緒にゲームをしたり、外でバスケットボールをしたりしました。家族では遊園地に行ったり、ピクニックに行ったり、観光地をドライブしたりと、とても貴重な体験をさせてもらいました。ご家族は

私に対してまるで既に家族であったかのように接してくださり、作法や考え方について厳しく叱られたこともありました。しかし、「ホームステイの外国人の人」ではなく「家族の一員」として見られていることに喜びを感じました。私のホームステイは約二週間とあっという間でしたがとても大切な思い出となりました。私がホームステイで学んだことは、アメリカという枠にとらわれないということです。ホストファザーは私に『アメリカに住んでいるからと言っても、必ず自由とは限らない。世界にはもっと自由な国もあるし不自由な国もある。そこで肝心なのは個人を個人として見ること。情報にとらわれず自分の目で確かめること。』と助言をくださいました。私はこの言葉を心に刻み込みました。将来、この言葉を頼りに様々な国に訪れ、自分の目で確かめることを心がけようと思います。そしてこれこそがグローバル人材の育成なのだとは私は確信しています。

5. おわりに

今回のプログラムを通して様々な経験をさせていただきました。勿論、楽しいことばかりではありません。言葉が通じず、自分の思っていることを相手に上手く伝えられないことで辛い思いをたくさんしました。しかし、自分の大きな助けとなったのも実際に現地に出会った人々であり、その優しさでした。言葉が通じなくともジェスチャーで伝える、時間がかかっても相手に自分の意見を伝えるという姿勢が大事だと改めて確認しました。言葉が通じないことで「次に来るまでに、もっと英語を上達させよう」とも思えることができ、自分を突き動かす原動力にこれらの体験がなっていることに喜びを覚えます。またそんな体験をさせていただいたすべての方に対して感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

もし、機会があるのであれば恐れずチャレンジすることが大事だと思います。どんな結果に終わろうと、その体験は自分を必ず成長させてくれます。